コンサートに対する大学生の意識と実態

～コロナ禍での変化～

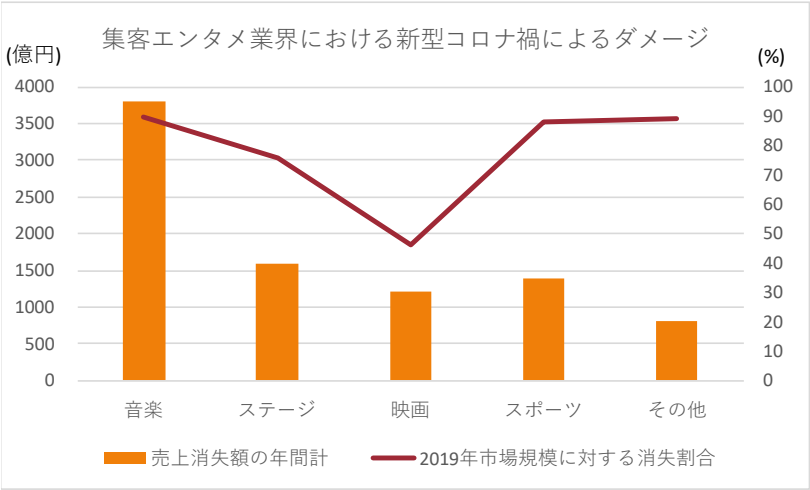
児島七彩（文教大学情報学部メディア表現学科）

1. はじめに

世界中に猛威を振るう新型コロナウイルス感染症（COVID-19）（以下、「新型コロナウイルス」と称する）が日本国内にも迫り、2020 年 4 月 7 日、緊急事態宣言が発令された。人々は外出自粛を余儀なくされ、新しい生活が始まった。その後、まん延防止等重点措置やイベント自粛要請など、緊急事態宣言のみならず状況に応じて様々な政策が打ち立てられてきた。日本ではファイザー社のワクチンが 2021 年 2 月 14 日に薬事承認され、同月 17 日から接種が開始されたものの、変異株の出現などにより、2022 年 2 月現在に至っても未だ収束のめどは立っていない。

新型コロナウイルスの影響はエンタメ業界にも及んでおり、ぴあ株式会社の調査によると、2020 年 3 月～2021 年 2 月に公演・試合等が中止・延期、入場制限により消失した入場料金の総額は下のグラフの通りで（図表-1）、音楽業界の消失額が最も多く、2019 年市場規模に対する消失割合も音楽業界が 9 割と、最大になっている。

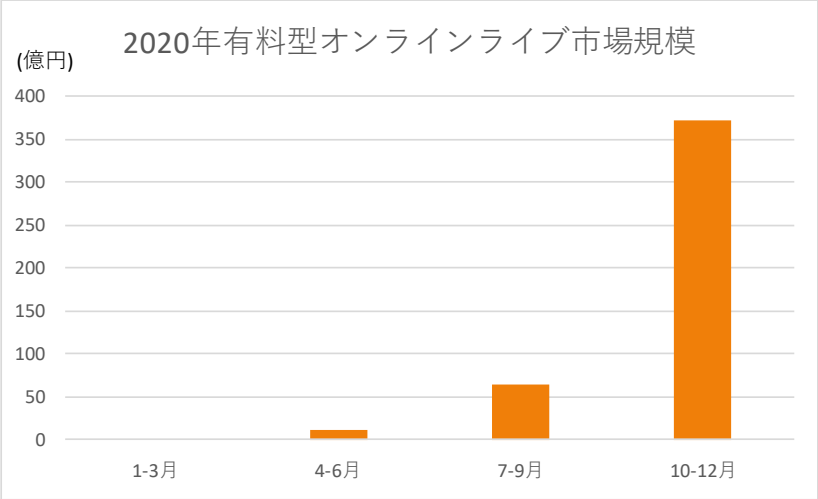
図表- 1　集客エンタメ業界における新型コロナ禍によるダメージ



ぴあ株式会社2021年より筆者作成

エンタメイベントの実施が厳しい状況の中、オンラインライブという形でイベントが開催される機会も増え、2020 年の有料型オンラインライブ市場規模の調査を見ると、1 年間で急拡大していることがわかる（図表-2）。

図表-2　2020年有料型オンライン市場規模



ぴあ株式会社2021年より筆者作成

オンラインライブ市場規模は拡大していて縮小傾向は見られないことから、主催側の一方的な供給となっているのではなく、利用者側にも需要が生まれ、受け入れられていると言えるだろう。

一時は有観客イベントの中止や延期を余儀なくされ、オンラインイベントという新しい形での楽しみ方も浸透し始めたエンタメだが、最近では有観客での開催も復活し始め、それにあたり、ガイドラインに沿う形で私たち観客一人一人の行動が非常に重要視されるようになった。

様々な考え方が生まれ、選択肢も増えている中で学生はどのようにエンタメと向き合っているのか、新型コロナウイルス流行による生活様式の変化との間に関連性があると仮説を立てた。また、生活という点に着目するにあたり、新型コロナウイルスに関する要素とは別の、潜在的なその人の意識や生活のゆとりなどの要素にも関連性を見出せるのではないかと考え、分析を行った。

2. 調査研究の方法

2-1. 調査概要

調査実施期間：2021 年 11 月 9 日～12 月 5 日
調査対象：文教大学越谷・湘南・あだちキャンパス在学 1～4 年生
調査人数：標本数 800 票（内不在 34 票）
有効回答数 183 票　回答率 23.8%

2-2. 調査項目

調査項目は大別して、〈回答者自身に関する項目〉、〈新型コロナウイルスによる生活の変化に関する項目〉、〈文化の在り方に関する項目〉、〈コンサートに関する項目〉、〈ライフスタイルに関する項目〉。以上 5 つによって構成した。以下、主な項目詳細。

〈回答者自身に関する項目〉
「性別」「学年」「学部」等基本的な項目。

〈新型コロナウイルスによる生活の変化に関する項目〉
新型コロナウイルスの流行によって生活にどのような変化があったのか、「外出頻度」「収入」「自由に使える時間」の 3 項目を設問した。

〈文化の在り方に関する項目〉
イベントの開催に対する政府の影響や、社会の風潮などについてどのように感じているのかを問う項目を設けた。

〈コンサートに関する項目〉
コロナ前とコロナ後の時期別で、有観客コンサートの参加状況や配信コンサートの視聴経験などを調査した。また、コンサートの醍醐味に関してや、コロナ禍で行う場合の感染対策に関する意識を問う項目を 5 段階評定で設問した。

〈ライフスタイルに関する項目〉
コンサートへの参加経験や意識との関連性を調査するため、生活のゆとりや社会志向性に関する質問を 5 段階評定で設問した。

2-3. 調査方法

調査票は Google フォームを利用し作成。サンプリングで抽出した該当者メールアドレスへ、調査票のハイパーリンクを添付したメールを送信。

サンプリング方法は学部ごとに層化抽出した後、等間隔系統抽出法を用いた。

以下、学部別割り当て詳細。

学部名	学科名	在学者数	対象者数	割合
情報学部	情報システム学科	1230	121	15%
	情報社会学科			
	メディア表現学科			
経営学部	経営学科	725	71	9%
国際学部	国際観光学科	1079	106	13%
	国際理解学科			
健康栄養学部	管理栄養学科	391	38	5%
人間科学部	人間科学科	1708	168	21%
	心理学科			
	臨床心理学科			
文学部	英米語英米文学科	1489	146	18%
	外国語学科			
	日本語日本文学科			
	中国語中国文学科			
教育学部	学校教育課程	1515	149	19%
	心理教育課程			

※学籍番号からの推計学生数であり、実際の在学生数とは異なる。

※対象者のうち、34 名は送付エラー。

※卒業年次以降の学生や、学籍番号が特殊な留学生は含まれていない。

3. 調査結果

3-1. 回答者の基本属性

回答者の特性であるが、「性別」は【女性】が 6 割強（126 名、68.8%）で、学年は若干２年生の割合が多いがおおむねバランスがよく（図表- 参照）、学部は人間科学部の割合（50 名、27.3%）が最も高かった（図表-3 参照）。

図表-3　基本属性

性別

男性	54
女性	126
記入なし	3

学年

1年生	46
2年生	54
3年生	44
4年生	39

学部

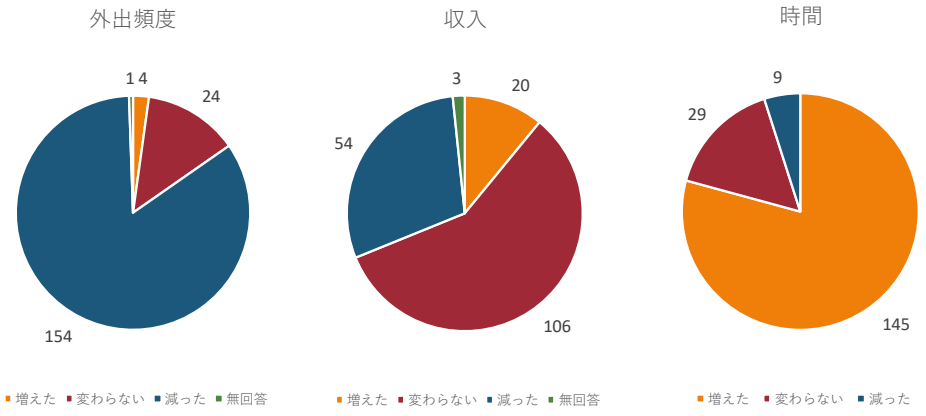
教育学部	30
人間科学部	50
文学部	28
情報学部	31
健康栄養学部	10
国際学部	22
経営学部	12

3-2. 新型コロナウイルス流行による生活の変化

新型コロナウイルスの流行に伴い回答者の生活にどのような変化があったのかを調べるため、「外出頻度」、「収入」、「自由に使える時間」の 3 項目について、【減った】、【増えた】、【変わらない】の 3 つの選択肢の中からそれぞれ 1 つ選択してもらった。

「外出頻度」に関しては【減った】が 8 割弱（154 名、84.1%）と最も多く、「収入」は【変わらない】が過半数を占め（106 名、57.9%）、「自由に使える時間」は【増えた】が 7 割強（145 名、79.2%）という結果になった（図表-4 参照）。「外出頻度」と「自由に使える時間」に関しては変化があった学生が多い傾向であるようだ。

図表-4　新型コロナウイルス流行前後での生活の変化



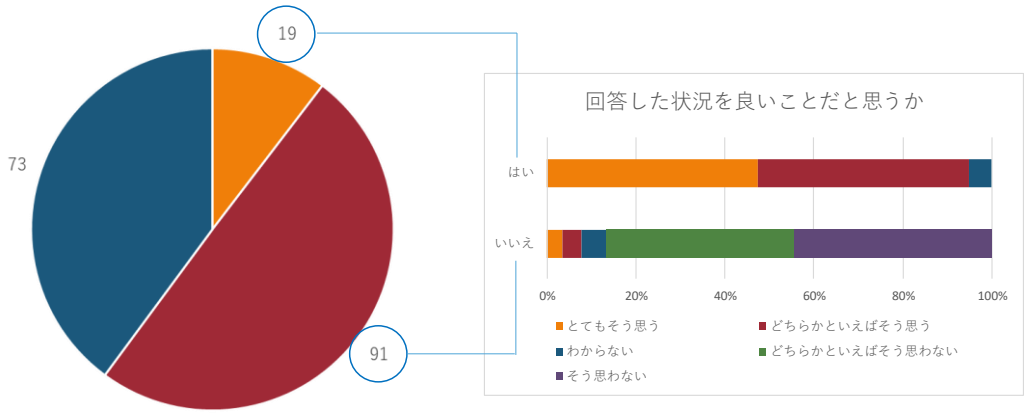
3-3. 文化の在り方について

「イベントの主催側は補償などの面で政府に守られていると思うか」という問いに【はい】、【いいえ】、【わからない】の三択で回答してもらった後、【はい】と回答した人には「イベントの主催側が補償などの面で政府に守られていることを良いことだと思うか」、【いいえ】と回答した人には「守られていないことを良いことだと思うか」という質問に【とてもそう思う】、【どちらかといえばそう思う】、【わからない】【どちらかといえばそう思わない】、【全くそう思わない】の五段階で回答してもらった。

「イベントの開催側は補償などの面で政府に守られていると思うか」に関しては【はい】（19 名、10.3%）、【いいえ】（91 名、49.7%）と、【いいえ】が大きく上回っており、イベントの主催側は政府に守られていない、と考えている人が多い。

「守られている」と考えている人は、それを「良いこと」だと考える人が多く、「守られていない」と考えている人は 8 割強（78 名、86.6%）がそれを「良くない」と考えており、イベントの主催側が補償されるべきだと考える人が多いことが読み取れる（図表-5 参照）。

図表-5　イベント主催者への補償について

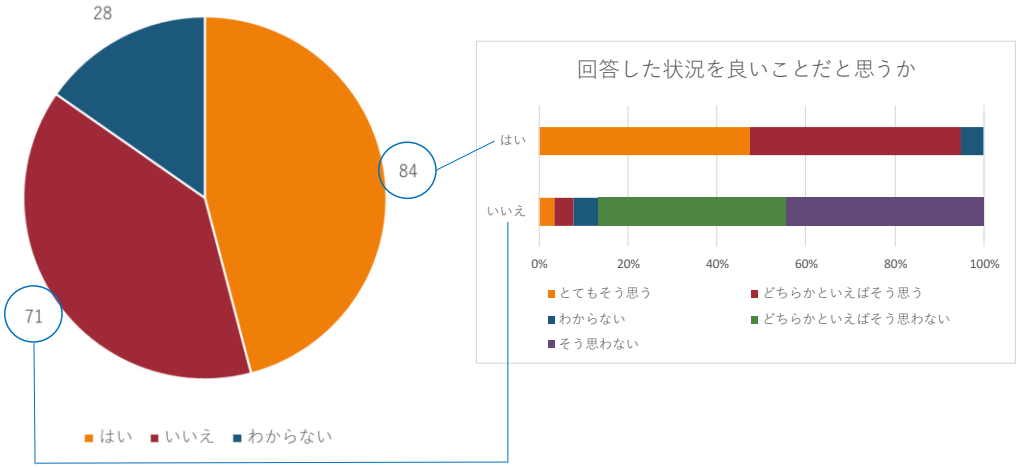


「イベントに参加したことを SNS で共有しにくいと感じるか」という問いに【はい】、【いいえ】、【わからない】の三択で回答してもらった後、【はい】と回答した人には「イベントに参加したことを SNS で共有しにくいことを良いことだと思うか」、【いいえ】と回答した人には「SNS で共有しやすいことを良いことだと思うか」という質問に【とてもそう思う】、【どちらかといえばそう思う】、【わからない】【どちらかといえばそう思わない】、【全くそう思わない】の五段階で回答してもらった。

【はい】と回答した人が 4 割強（84 名、45.9%）と半数に迫る一方、【いいえ】と回答した人は【はい】と回答した人の半数以下（28 名、38.8%）に留まったことで、社会の目を気にする傾向が伺える。

「共有しにくい」と考えている人はそれを「良くない」と考える人が過半数（44 名、52.9%）を占めており、反対に「共有しやすい」と考えている人はそれを「良いこと」と考える人が約 6 割（42 名、59.9%）にのぼることから、周りの目を気にせずに SNS が利用できるべきだと感じている人が多い傾向だと言える（図表-6 参照）。

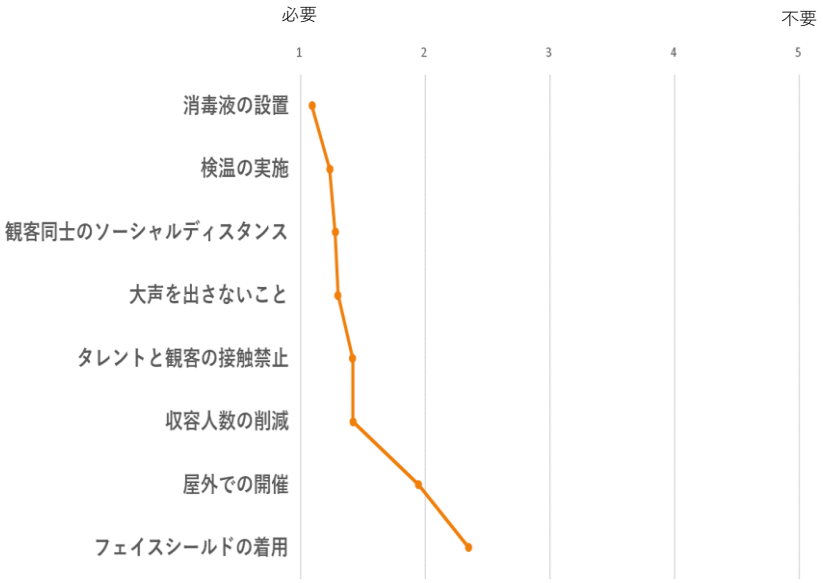
図表-6　イベント参加に関するSNS共有について



3-4. コンサートについて

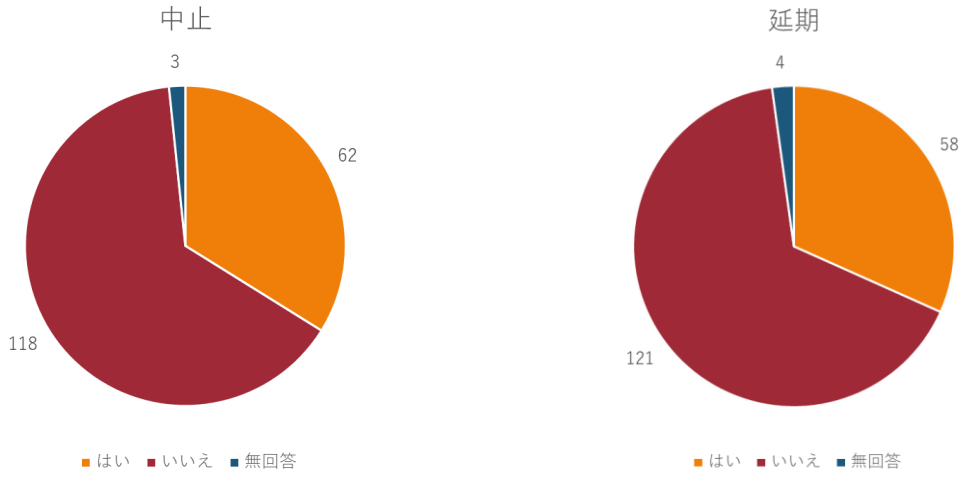
コロナ禍におけるイベント開催において何が必要だと考えるか、それぞれ 5 段階(1 が「必要」、5 が「不要」)で評定してもらった。最も必要だと感じられていたのは「消毒液の設置」（1.0 点）であった。最も不要と感じられていたのは「フェイスシールドの着用」（2.3 点）であったが、平均の 3.0 点を下回っており、用意したすべての項目で平均よりも「必要」と感じる分布になっているため、コロナ禍でのイベント開催において感染対策が必要不可欠だと考えられていると言える（図表-7 参照)。

図表-7　コロナ禍でのイベント開催における感染対策について



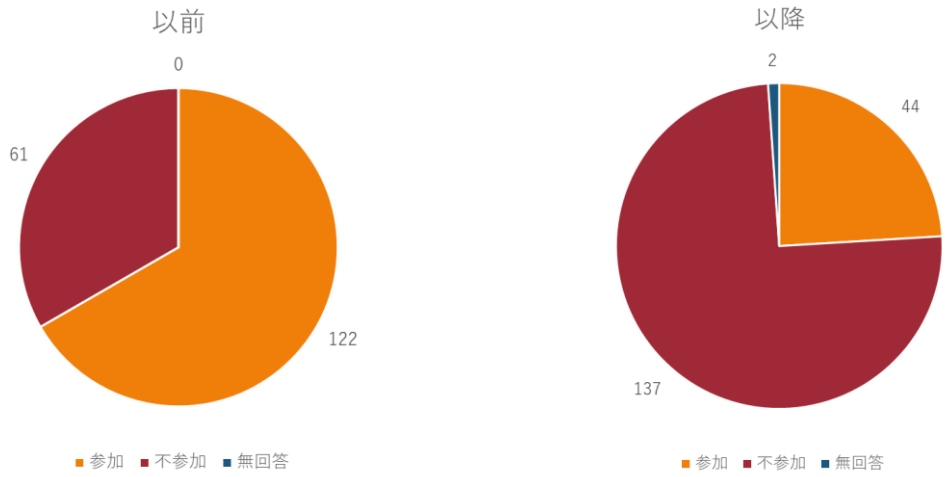
緊急事態宣言やイベント自粛要請により、チケットを購入していたコンサートが中止・延期になった経験について、それぞれ【はい】と【いいえ】の二択で回答してもらった。どちらも 3 割弱（中止：62 名、33.8%　延期：58 名、31.6%）が経験しているという結果であった（図表-8　参照）。

図表-8　コンサートの中止・延期経験



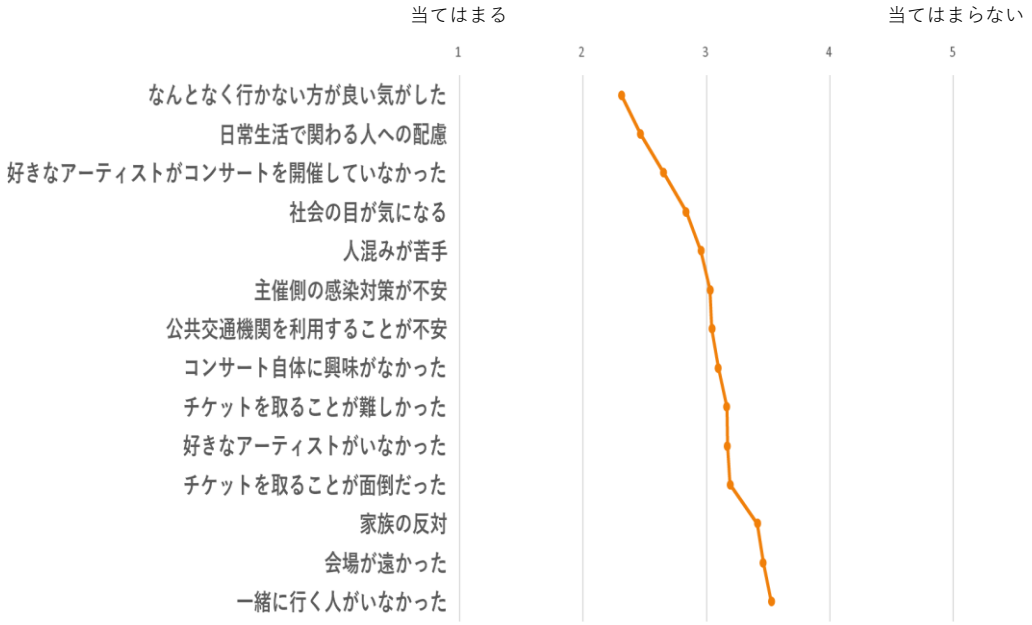
2020 年の最初の緊急事態宣言発令の「以前」と「以降」でそれぞれ有料の有観客コンサートに行ったことがあるか調査した。その結果、「以前」では 6 割（122 名、66.6%）が行ったことがあると回答したのに対し、「以降」に行ったことがある人は 2 割（44 名、24.0%）に留まった（図表-9　参照）。

図表-9　新型コロナウイルス流行前後でのコンサートへの参加経験



2020 年の最初の緊急事態宣言発令「以降」に有料の有観客コンサートに行ったことがあるかどうかの問いに【いいえ】と回答した人に、その理由を 14 項目、それぞれ 5 段階で評定してもらった。「なんとなくいかない方が良い気がした」（2.3 点）や「日常生活で関わる人への配慮」（2.4 点）が上位となっており、自分本位の意思ではなく、社会的なことを考慮したり、他人への配慮をしていたりすることが考えられる（図表-10 参照）。

図表-10　新型コロナウイルス流行後のコンサート不参加理由



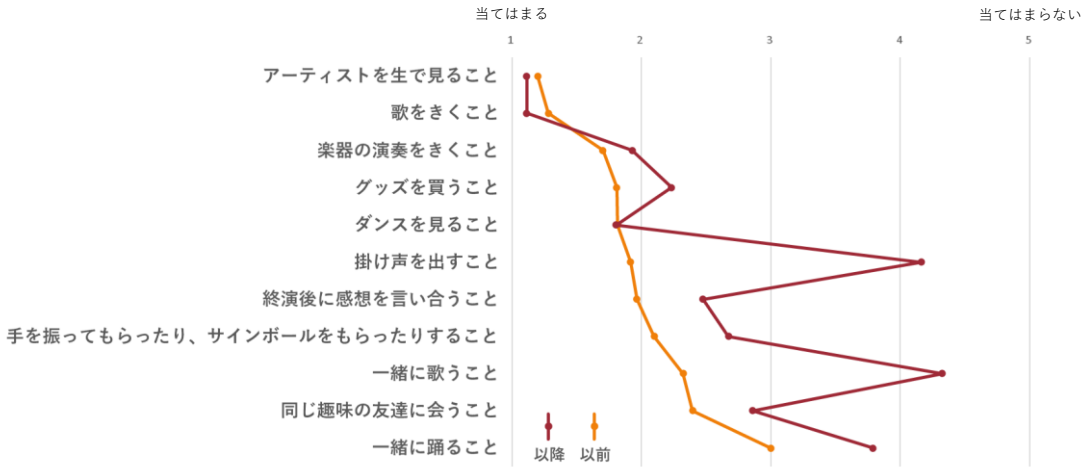
コロナ禍におけるイベント開催において何が必要だと思うかの設問で、フェイスシールドの項目の平均値は、コロナ後の有観客コンサートに参加経験がある人は 2.86(SD=1.49)、未経験の人は 2.16(SD=1.23)であった。コロナ後のコンサートの参加経験によって平均値に違いがあるかどうかを検討するため、対応のない t 検定を実施した。その結果、これら 2 つの平均値の間に有意な差がみられた($t(63.06)=2.84, p<.01$)。このことから、コロナ後のコンサート経験がある人の方がフェイスシールドの着用を必要だと思っていない人が多いと言えるだろう。

図表-20　フェイスシールド着用に関する対応のない t 検定

コロナ後コンサート	人数	平均値	標準偏差	*t*値	df	*p*値
はい	44	2.86	1.49	2.84	63.06	.006
いいえ	137	2.16	1.23			

2020 年の最初の緊急事態宣言発令の「以前」と「以降」でそれぞれコンサートの醍醐味だと感じるものについて、11 項目、それぞれ 5 段階で評定してもらった。最も上位だったのは「以前」で「アーティストを生で見ること」(1.1 点)、「以降」で「アーティストを生で見ること」と「歌をきくこと」が同率（1.1 点）となり、コロナ禍前後で最も変化があったのは「掛け声を出すこと」で（以前：1.9 点　以後：4.1 点)、2.2 点の変化があった。「一緒に歌うこと」も大きな変化があり（以前：2.3 点　以後：4.3 点)、声を出すということに対する制約が強いことが読み取れる（図表-11 参照)。

図表-11　新型コロナウイルス流行前後のコンサートの醍醐味



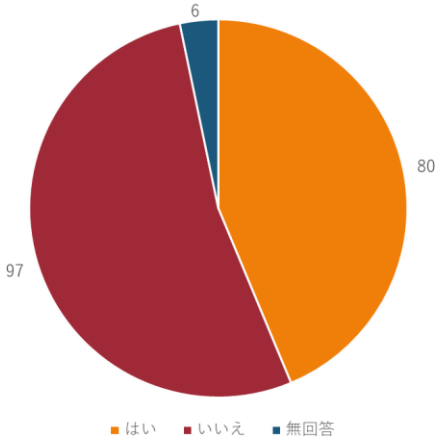
「新型コロナウイルス流行の前後」によって「コンサートの醍醐味」に違いがあるのかどうか検討するため、コンサートの醍醐味に関する各項目の五段階評定による平均得点を従属変数として、新型コロナウイルス流行前後の分散分析を行った（図表- 参照)。その結果、「掛け声を出すこと」（$F(1,160)=110.43$, $p<0.01$)、「一緒に歌うこと」（$F(1,162)=68.32$ $p<0.01$)、「一緒に踊ること」（$F(1.162)=9.88$, $p<0.01$)、「手を振ってもらったり、サインボールをもらったりすること」($F(1,162)=5.18$, $p<0.05$)、「グッズを買うこと」($F(1,162)=4.09$, $p<0.05$)、「終演後に感想を言い合うこと」（$F(1,160)=5.37$, $p<0.05$）の 6 つの項目で有意な差が認められた。

図表-12　新型コロナウイルス流行前後のコンサートの醍醐味に関する分散分析

項目	時期	度数	平均値	標準偏差	F値	自由度	有意確率
アーティストを生で見ること	以前	121	1.20	0.60	0.63	1,163	.428
	以後	44	1.11	0.62			
歌をきくこと	以前	120	1.28	0.78	1.69	1,162	.195
	以後	44	1.11	0.62			
ダンスを見ること	以前	121	1.82	1.24	0.00	1,160	.953
	以後	41	1.80	1.25			
楽器の演奏をきくこと	以前	121	1.70	1.08	1.28	1,162	.259
	以後	43	1.93	1.28			
掛け声を出すこと	以前	119	1.92	1.18	110.44	1,160	.000
	以後	43	4.16	1.27			
一緒に歌うこと	以前	121	2.32	1.44	68.33	1,162	.000
	以後	43	4.33	1.13			
一緒に踊ること	以前	121	3.00	1.43	9.88	1,162	.002
	以後	43	3.79	1.39			
手を振ってもらったり、サインボールをもらったりすること	以前	121	2.10	1.40	5.18	1,162	.024
	以後	43	2.67	1.49			
グッズを買うこと	以前	121	1.81	1.14	4.09	1,162	.045
	以後	43	2.23	1.27			
同じ趣味の友達に会うこと	以前	121	2.40	1.38	3.43	1,162	.066
	以後	43	2.86	1.49			
終演後に感想を言い合うこと	以前	120	1.97	1.17	5.38	1,160	.022
	以後	42	2.48	1.37			

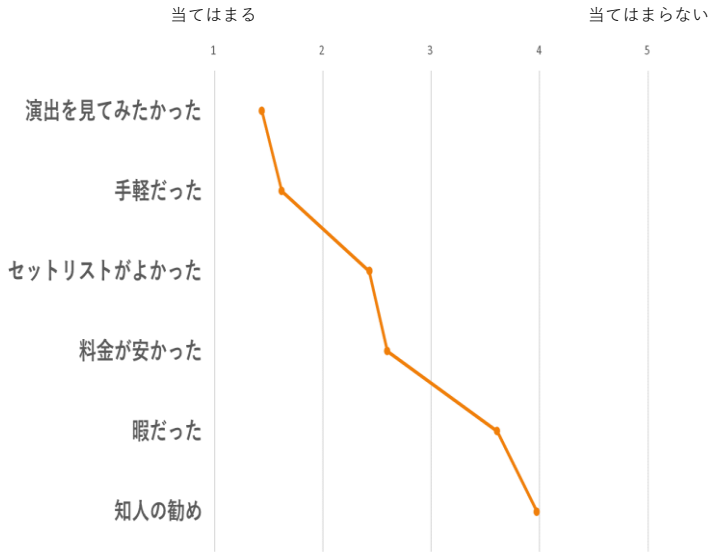
2020 年の最初の緊急事態宣言発令「以降」に、有料の配信コンサートを購入し、視聴したことがあるか調査したところ、視聴したことがあると回答した人が 4 割と（80 名、43.7%）、約半数の人が、視聴経験があるという結果だった（図表-13 参照）。

図表-13　配信コンサートの視聴経験について



配信を視聴したことがあると回答した人に対し、理由を 6 項目、5 段階で評定してもらった。理由として最も当てはまらない分布になったのは「知人の勧め」(3.9 点)、当てはまるのは「演出を見てみたかった」(1.4 点) 結果となり、前向きな理由で配信を購入した傾向が読み取れた（図表-14 参照)。

図表-14　配信コンサートの視聴理由



3-5. ライフスタイルについて

回答者の生活のゆとりを調べるため（参考：古川秀夫、山下京、八木隆一郎(1993)「ゆとりの構造」『社会心理学研究』、第 9 巻、第 3 号、pp.171-180)、24 項目を 5 段階で評定してもらった。この傾向がどのような因子を持つのか、プロマックス回転を用いて最尤法による因子分析を行った。その結果、図表-15 のように 7 つの因子に分類することが出来た。第一因子には「経済的な余裕がある」、「安らぎのある生活を送っている」といった満足感の伺える要素が高い因子寄与率で抽出されたので【満足因子】と名付けた。第二因子には「何事も楽しんでやっている」、「他人のために心遣いする余裕がある」等のメンタル面で余裕が感じられる要素が抽出されたため【余裕因子】、第三因子には「休暇は十分にある」などの時間的余裕が見られる要素が抽出されたため【自由因子】、第四因子には「頭を離れない心配事がある」、「老後のことが心配でならない」といった余裕のなさが伺える要素が抽出されたため【必死因子】、第五因子には「たいてい自分のペースで事が進めている」等の要素が抽出されたため【自分因子】、第六因子には「いやなことはとにかくしない」、「頭を空っぽにしていることがよくある」など自分にとって都合の悪いことを避けている印象の要素が抽出されたため【防御因子】と名付けた。そして第七因子には「感謝したくなることが多い」、「美しい環境に恵まれている」といった周りへの感情が感じられる要素が抽出されたため【環境因子】となった。

図表-15　生活のゆとりに関する因子分析

項目	満足因子	余裕因子	自由因子	必死因子	自分因子	防御因子	環境因子	平均値
精神的に安定してる	**.853**	.071	.041	-.066	.011	.273	-.138	2.337
家庭内はうまくいっている	**.746**	.017	-.078	.016	-.037	.198	-.103	1.944
今の生活に満足している	**.613**	.028	.117	-.029	-.158	-.040	.062	2.514
生活は安定している	**.551**	-.243	.090	-.117	.234	.010	.109	2.242
経済的な余裕がある	**.484**	-.120	-.026	.066	.279	-.065	.070	3.028
安らぎのある生活を送っている	**.412**	-.147	.251	-.094	.050	-.125	.212	2.427
私には遊び心がある	-.273	**.849**	.103	-.019	.095	.145	.029	2.106
何事も楽しんでやっている	.162	**.818**	-.105	.014	-.198	.060	.097	1.978
大きな目標がある	-.037	**.485**	.044	.065	-.074	-.276	.194	2.961
自分に自信がある	.281	**.341**	-.059	.060	.107	-.293	-.048	3.397
他人のために心遣いする余裕がある	.290	**.303**	.137	-.102	.008	-.143	.067	2.056
自由な時間がある	.074	.049	**1.040**	.110	-.131	.104	-.032	1.894
休暇は十分にある	.063	-.034	**.599**	.084	.273	.249	-.164	2.360
頭を離れない心配事がある	-.172	.088	.185	**.580**	-.122	.137	.141	2.455
人生について考える余裕がない	.319	-.107	-.302	**.552**	-.111	.239	-.009	3.511
何かと気に入らないことが多い	-.199	-.049	-.064	**.533**	.218	.010	.004	3.208
老後のことが心配でならない	-.019	.046	.159	**.459**	-.095	.149	.023	2.743
たいてい自分のペースで事が進めている	.045	.253	.046	-.089	**.609**	.487	-.033	2.011
住んでいる家は十分な広さがる	.019	-.149	-.019	-.047	**.589**	.193	.266	2.051
いやなことはとにかくしない	.168	.024	.094	.121	.165	**.485**	.021	2.713
頭を空っぽにしていることがよくある	.049	-.072	.102	.150	.151	**.476**	.129	2.455
たいていのことは対処できる	.189	.371	-.011	.079	.124	**-.391**	-.169	2.646
感謝したくなることが多い	-.072	.123	-.079	.119	.201	.104	**.837**	1.860
美しい環境に恵まれている	.222	.212	-.164	-.103	.139	.216	**.390**	2.145
固有値	6.052	2.262	2.004	1.424	1.225	1.198	1.110	
累積寄与率							63.642	

回答者の社会志向性を調査するため、9 項目を 5 段階で評定してもらった。この傾向がどのような因子を持つのか、プロマックス回転を用いて最尤法による因子分析を行った。その結果、図表-16 のように 2 つの因子に分類することが出来た。第一因子には「周りとの調和を重んじている」、「人とのつながりを大事にしている」といった、協調性が伺える因子が抽出されたので協調因子と名付けた。第二因子には「他の人から尊敬される人間になりたい」、「社会（周りの人）のために役立つ人間になりたい」等、他人から認められたい気持ちが伺える因子が抽出されたので承認因子とした。

図表-16　社会志向性に関する因子分析

項目	協調因子	承認因子	平均値
社会のルールに従って生きていると思う	**.771**	-.224	1.642
周りとの調和を重んじている	**.677**	-.071	1.792
人に対して誠実であるように心がけている	**.543**	.272	1.562
他人に恥ずかしくないように生きている	**.516**	.123	2.140
他の人の気持ちになることができる	**.496**	.104	1.933
人とのつながりを大事にしている	**.458**	.142	1.730
他の人から尊敬される人間になりたい	-.152	**.913**	1.753
社会（周りの人）のために役立つ人間になりたい	.043	**.611**	1.775
社会（周りの人）の中で自分が果たすべき役割がある	.321	**.372**	2.554
固有値	3.619	1.280	
累積寄与率		54.434	

3-6. コンサートやライフスタイルの関連性について

外出頻度の変化（Q4）とコロナ禍以降の有観客コンサートへの参加経験（Q29）の関連を示したのが、図表-17 である。

データからは、「コロナ禍以降に有観客コンサートへ参加した人」は「外出頻度が減った人」である傾向が見られる。

しかし、カイ二乗検定の結果、２変数の関連は有意ではなく、外出頻度の変化（Q4）とコロナ禍以降の有観客コンサートへの参加経験（Q29）には、関連がないことが分かった。

図表-17　「外出頻度の変化」と「コロナ禍以降の有観客コンサートへの参加経験」のクロス集計

コロナ後有観客コンサート	外出頻度			合計
	増えた	変わらない	減った	
はい	1 (2.2)	8 (18.1)	33 (79.5)	44 (100)
いいえ	3 (2.2)	15 (11.0)	118 (86.7)	136 (100)
合計	15 (2.2)	23 (12.7)	153 (85.0)	180 (100)

()内は割合　　χ^2 =1.535, *df*=2, *N.S*

収入の変化（Q5）とコロナ禍以降の有観客コンサートへの参加経験（Q29）の関連を示したのが、図表-18 である。

収入の変化がない人が多く、カイ二乗検定の結果、2 変数の関連は有意ではなく、外出頻度の変化（Q5）とコロナ禍以降の有観客コンサートへの参加経験（Q29）には、関連がないことが分かった。

図表-18　「収入の変化」と「コロナ禍以降の有観客コンサートへの参加経験」のクロス集計

コロナ後有観客コンサート	収入			合計
	増えた	変わらない	減った	
はい	6 (13.6)	26 (59.0)	12 (27.2)	44 (100)
いいえ	13 (9.7)	79 (58.9)	42 (31.3)	134 (100)
合計	19 (10.6)	134 (58.9)	54 (30.3)	178 (100)

()内は割合　　χ^2 =0.661, df=2, $N.S$

外出頻度の変化（Q6）とコロナ禍以降の有観客コンサートへの参加経験（Q29）の関連を示したのが、図表-19 である。

データからは、自由に使える時間が「増えた」にも関わらず、コロナ禍以降にコンサートへいった経験が「ない」と回答した人が 83.9%と、高い割合になっていることがわかる。また、コンサートに行っている人は「コンサートに行かない人」よりも自由に使える時間が変わらない人が多い。つまり、コロナ禍による生活の変化が少ない故に変わらずコンサートに行くことが考えられる。

カイ二乗検定の結果、2 変数の関連は 5 %水準で有意であり、自由に使える時間の変化（Q6）とコロナ禍以降の有料有観客コンサートの参加経験（Q29）には、有意な関連が認められている。

図表-19　「外出頻度の変化」と「コロナ禍以降の有観客コンサートへの参加経験」のクロス集計

コロナ後有観客コンサート	時間			合計
	増えた	変わらない	減った	
はい	29 (65.9)	11 (25.0)	4 (9.0)	44 (100)
いいえ	115 (83.9)	17 (12.4)	5 (3.6)	137 (100)
合計	144 (12.4)	28 (15.4)	9 (4.9)	181 (100)

()内は割合　　χ^2 =6.757, df=2, p <.05

上記 3 つの集計のうち「自由に使える時間」のみ有意な関連が認められたことから、コロナ後にコンサートに行く人の生活の特徴として「収入」や「外出頻度」ではなく「時間」が影響していると言える。しかし、時間が増えたにも関わらずコンサートに行っていない人が多いことから、コンサートの開催数の減少や社会の状勢など本人とは別の要因が影響している可能性も考えられる。

イベントに参加することが悪いことに感じるか（Q13）とイベントに参加したことをSNSに共有しにくいと感じるか（Q16）の関連を示したのが、図表-21である。

データからは、イベントへの参加が悪いことに感じている人はSNSへの共有もしにくいと感じており（72.2%）、一方でイベントへの参加が悪いことに感じていない人はSNSへの共有もしにくいと感じていない割合が高い（46.1%）ことがわかる。

カイ二乗検定の結果、2変数の関連は1%水準で有意であり、イベントに参加することが悪いことに感じるか（Q13）とイベントに参加したことをSNSに共有しにくいと感じるか（Q16）には、有意な関連が認められている。

図表-21　「イベント参加への意識」と「SNSに共有への意識」のクロス集計

イベントへの参加が悪いことに感じるか	SNSで共有しにくいと感じるか			合計
	はい	いいえ	わからない	
はい	13 (72.2)	2 (11.1)	3 (16.6)	18 (100)
いいえ	58 (40.5)	66 (46.1)	19 (13.2)	143 (100)
わからない	13 (59.0)	3 (13.6)	6 (27.2)	22 (100)
合計	84 (45.9)	71 (38.8)	28 (15.3)	183 (100)

()内は割合　　χ^2 =16.04, df=4, p <.01

外出頻度の変化（Q4）とコロナ後の有料配信コンサートの視聴経験（Q33）の関連を示したのが、図表-22、収入の変化（Q5）とコロナ後の有料配信コンサートの視聴経験（Q33）の関連を示したのが、図表-23、自由に使える時間の変化（Q6）とコロナ後の有料配信コンサートの視聴経験（Q33）の関連を示したのが、図表-24である。

カイ二乗検定の結果、いずれも2変数の関連は有意ではなく、外出頻度の変化（Q4）とコロナ後の有料配信コンサートの視聴経験（Q33）、収入の変化（Q5）とコロナ後の有料配信コンサートの視聴経験（Q33）、自由に使える時間の変化（Q6）とコロナ後の有料配信コンサートの視聴経験（Q33）には、それぞれ関連がないことが分かった。

図表-22　「外出頻度の変化」と「コロナ後の有料配信コンサートの視聴経験」のクロス集計

コロナ後配信コンサート	外出頻度			合計
	増えた	変わらない	減った	
はい	1 (1.2)	11 (13.7)	68 (85.0)	80 (100)
いいえ	3 (3.1)	12 (12.5)	81 (84.3)	96 (100)
合計	4 (2.2)	23 (13.0)	149 (84.6)	176 (100)

()内は割合　　χ^2 =0.729, df=2, $N.S$

図表-23　「収入の変化」と「コロナ後の有料配信コンサートの視聴経験」のクロス集計

コロナ後配信コンサート	収入			合計
	増えた	変わらない	減った	
はい	9 (11.2)	44 (55.0)	27 (33.7)	80 (100)
いいえ	11 (11.7)	57 (60.6)	26 (27.6)	94 (100)
合計	20 (11.4)	101 (58.0)	53 (30.4)	174 (100)

()内は割合　　χ^2 =0.771, *df*=2, *N.S*

図表-24　「自由に使える時間の変化」と「コロナ後の有料配信コンサートの視聴経験」のクロス集計

コロナ後配信コンサート	時間			合計
	増えた	変わらない	減った	
はい	62 (77.5)	12 (15.0)	6 (7.5)	80 (100)
いいえ	79 (81.4)	15 (15.4)	3 (3.0)	97 (100)
合計	141 (79.6)	27 (15.2)	9 (5.0)	177 (100)

()内は割合　　χ^2 =1.767, *df*=2, *N.S*

購入済み有観客コンサートの新型コロナウイルス流行による中止経験（Q23）とコロナ後の有料配信コンサートの視聴経験（Q33）の関連を示したのが、図表-25 である。
データからは、中止経験のある人は配信コンサートの視聴経験があり、逆に、中止経験のない人は配信コンサートの視聴経験もない傾向が読み取れる。

カイ二乗検定の結果、２変数の関連は 1%水準で有意であり、購入済み有観客コンサートの新型コロナウイルス流行による中止経験（Q23）とコロナ後の有料配信コンサートの視聴経験（Q33）には、有意な関連が認められている。

延期経験に関しても同じような傾向が見られ（図表-26）、新型コロナウイルス流行による延期経験（Q24）とコロナ後の有料配信コンサートの視聴経験（Q33）には、有意な関連が認められている。

図表-25　「有観客コンサートの中止経験」と「コロナ後のコンサート視聴経験」のクロス集計

コロナ後コンサート中止	コロナ後配信コンサート		合計
	はい	いいえ	
はい	40(66.6)	20(33.3)	60 (100)
いいえ	39(34.2)	75(65.7)	114 (100)
合計	79(45.4)	95(54.6)	174 (100)

()内は割合　　χ^2 =16.705, *df*=1, p <.01

図表-26　「有観客コンサートの延期経験」と「コロナ後のコンサート視聴経験」

コロナ後コンサート延期	コロナ後配信コンサート		合計
	はい	いいえ	
はい	41(73.2)	15(26.7)	56 (100)
いいえ	39(33.0)	79(66.9)	118 (100)
合計	80(45.9)	94(54.0)	174 (100)

()内は割合　　χ^2 =24.664, df=1, p <.01

上記５つの集計から、配信コンサートの視聴経験と生活の変化に関連性はないことがわかった。また、有観客コンサートの中止や延期を経験している人がコロナ後の配信コンサートを視聴している傾向があることから、もともとエンタメに興味を持っていた人が配信コンサートを新しいエンタメの形として受け入れ、活用していることが伺える。

購入済み有観客コンサートの新型コロナウイルス流行による中止経験（Q23）とイベントの主催側が補償などの面で守られていると思うかどうか（Q10）の関連を示したのが、図表-27 である。

データからは、中止経験がありイベントの主催側が守られているかの問いに「いいえ」と回答した人が６割と過半数を占めているのに対し、中止経験のない人は「わからない」の割合が最も高いことがわかる。

新型コロナウイルスが流行する前からイベントに対する関心がある人は、コロナ禍以降のイベント業界の動向に注目している傾向が伺える。

カイ二乗検定の結果、２変数の関連は 1%水準で有意であり、購入済み有観客コンサートの新型コロナウイルス流行による中止経験（Q23）とイベントの主催側が補償などの面で守られていると思うかどうか（Q10）には、有意な関連が認められている。

延期経験（Q24）に関しても同じような傾向が見られ、5%水準で有意な関連が認められている（図表-28）。

図表-27　「有観客コンサートの中止経験」と「イベント主催側への補償について」のクロス集計

コロナ後コンサート中止	イベントの主催側は補償などの面で守られていると思うか			合計
	はい	いいえ	わからない	
はい	5 (8.0)	41 (66.1)	16 (25.8)	62 (100)
いいえ	14 (11.8)	49 (41.5)	55 (46.6)	118 (100)
合計	19 (10.5)	90 (46.6)	71 (39.4)	180 (100)

()内は割合　　χ^2 =9.936, df=2, p <.01

図表-28　「有観客コンサートの延期経験」と「イベント主催側への補償について」のクロス集計

コロナ後コンサート延期	イベントの主催側は補償などの面で守られていると思うか			合計
	はい	いいえ	わからない	
はい	5 (8.6)	37 (63.7)	16 (27.5)	58 (100)
いいえ	14 (11.5)	51 (42.1)	56 (46.2)	121 (100)
合計	19 (10.6)	88 (49.1)	72 (40.2)	179 (100)

()内は割合　　χ^2 =7.464, df=2, p <.05

ここで、因子分析の結果から【余裕因子】、【自由因子】、【承認因子】がコンサートの参加と関連があると仮説を立てた。

コロナ禍以前の有観客コンサートへの参加経験（Q25）と、生活のゆとりの「余裕因子」（Q35）の関連を示したのが、図表-29 である。余裕因子は「強」「中」「弱」の 3 段階で分類している。(合計得点を 3 分割し、点数が一番低いグループを「強」、高いグループを「弱」としている。)

データからは、参加不参加どちらとも約 6 割が「余裕因子」で「中」の分類に当てはまる傾向が分かる。

カイ二乗検定の結果、2 変数の関連は有意ではなく、コロナ禍以前の有観客コンサートへの参加経験（Q25）と、社会志向性の「余裕因子」（Q35）の関連がないことが分かった。コロナ禍以降の有観客コンサートへの参加経験（Q29）と生活のゆとりの「余裕因子」(Q35)の関連も似たような結果となり、2 変数の関連は有意ではなく、関連がないことがわかった（図表-30)。

図表-29　「コロナ禍以前の有観客コンサートへの参加経験」と「余裕因子」のクロス集計

コロナ前コンサート	余裕因子			合計
	強	中	弱	
参加	23 (18.8)	82 (67.2)	17 (13.9)	122 (100)
不参加	9 (14.7)	40 (65.5)	12 (19.6)	61 (100)
合計	32 (17.4)	122 (66.6)	29 (15.8)	183 (100)

()内は割合　　χ^2 =1.252, df=2, *N.S*

図表-30　「コロナ禍以降の有観客コンサートへの参加経験」と「余裕因子」のクロス集計

コロナ後コンサート	余裕因子			合計
	強	中	弱	
参加	8 (18.1)	27 (61.3)	9 (20.4)	44 (100)
不参加	22 (16.0)	95 (69.3)	20 (14.6)	137 (100)
合計	30 (16.5)	122 (67.3)	29 (16.0)	181 (100)

()内は割合　　χ^2 =1.118, df=2, *N.S*

コロナ禍以前の有観客コンサートへの参加経験（Q25）と、生活のゆとりの「自由因子」（Q35）の関連を示したのが、図表-である。自由因子は「強」「中」「弱」の３段階で分類している。

データからは、参加不参加どちらとも過半数が「自由因子」で「中」の分類に当てはまる傾向が分かる。

カイ二乗検定の結果、２変数の関連は有意ではなく、コロナ禍以前の有観客コンサートへの参加経験（Q25）と、生活のゆとりの「自由因子」（Q35）の関連がないことが分かった。

コロナ禍以降の有観客コンサートへの参加経験（Q29）と生活のゆとりの「余裕因子」（Q35）の関連も似たような結果となり、２変数の関連は有意ではなく、関連がないことがわかった（図表-）。

図表-31　「コロナ禍以前の有観客コンサートへの参加経験」と「自由因子」のクロス集計

コロナ前コンサート	自由因子			合計
	強	中	弱	
参加	43 (35.2)	68 (55.7)	11 (9.0)	122 (100)
不参加	19 (31.1)	35 (57.3)	7 (11.4)	61 (100)
合計	62 (33.8)	103 (56.2)	18 (9.8)	183 (100)

()内は割合　　χ^2 =0.471, *df*=2, *N.S*

図表-32　「コロナ禍以降の有観客コンサートへの参加経験」と「自由因子」のクロス集計

コロナ後コンサート	自由因子			合計
	強	中	弱	
参加	11 (25.0)	29 (65.9)	4 (9.0)	44 (100)
不参加	49 (35.7)	74 (54.0)	14 (10.2)	137 (100)
合計	60 (33.1)	103 (56.9)	18 (9.9)	181 (100)

()内は割合　　χ^2 =2.035, *df*=2, *N.S*

コロナ禍以前の有観客コンサートへの参加経験（Q25）と、社会志向性の「承認因子」（Q36）の関連を示したのが、図表-33 である。承認因子は「強」「中」「弱」の３段階で分類している。

データからは、参加、不参加共に承認因子の点数が「弱」の割合が少なく、「強」と「中」の割合はほぼ半々ということがわかる。

カイ二乗検定の結果、２変数の関連は 5%水準で有意であり、コロナ禍以前の有観客コンサートへの参加経験（Q25）と、社会志向性の「承認因子」（Q36）には、有意な関連が認められている。承認因子の性質の「弱」に注目すると、コンサートに行っている人の方が割合が少ないことから、コンサートに行く人は承認因子の特徴が強いと言えるだろう。

図表-33　「コロナ禍以前の有観客コンサートへの参加経験」「承認因子」のクロス集計

コロナ前有観客コンサート	承認因子			合計
	強	中	弱	
参加	57 (46.7)	64 (52.4)	1 (0.8)	122 (100)
不参加	26 (42.6)	29 (47.5)	6 (9.8)	61 (100)
合計	83 (45.3)	93 (50.8)	7 (3.8)	183 (100)

()内は割合　　χ^2 =8.987, df=2, p <.05

4. まとめ

コンサートへの参加経験がある学生は過半数を超えており、学生にとって必要な娯楽であると言える。そのような中で新型コロナウイルスの影響によりコンサートの中止や延期を経験した学生も３割を超えていることから、新型コロナウイルスのエンタメへの影響は大学生も実感せざるを得ない状況のようである。コンサートの醍醐味だと感じるものについて、新型コロナウイルス流行前後で区切りそれぞれ５段階評定で調査した項目では「掛け声を出すこと」の変化が最も大きく、新型コロナウイルス流行後の方が【当てはまらない】に近づく結果となった。新型コロナウイルス流行後に最も【当てはまらない】結果になったのは「一緒に歌うこと」であり、声を出すということへの楽しみが薄れてしまっている現状が伺えた。コロナ禍におけるイベント開催において何が必要だと考えるかという設問でも「大声を出さないこと」が上位の結果となっており、エンタメ業界での新型コロナウイルス感染拡大防止に「声」はとても重要な要素になっていると考えらえる。この設問で設置したすべての項目で平均値３よりも【必要】に近づいている結果を見ると、学生はコロナ禍のイベント開催において感染拡大防止対策は必要不可欠だと感じているようである。

新型コロナウイルスの影響による生活の変化を調査すると、外出頻度が減少した割合と自由に使える時間が増加した割合が大きい結果となったが、コンサートへの参加状況との関連性は認められなかった。また、生活のゆとりに関する設問と社会志向性に関する設問を設け、コンサートへの参加状況や意識との関連性にも着目したが、こちらも関連性は認められなかった。学生の生活状況と、エンタメを享受することの間には深い関りはなく、どのような状況でも楽しむことができるのがエンタメというものなのかもしれない。イベントの主催側は補償などの面で守られるべきだと考える学生や、イベントへの参加を周りの目を気にせず SNS で共有できるべきだと考える学生が多いことから、エンタメ業界を応援している学生やエンタメを楽しみたいと感じている学生が多いことが伺える。一刻も早く新型コロナウイルスの感染拡大が収束し、以前のように何も気にすることなくエンタメを楽しめる世の中になることを願うばかりである。

5. 参考文献

・「ぴあ総研_20210418」
〈https://corporate.pia.jp/news/files/piasoken210418.pdf〉

・「2020 年の有料型オンラインライブ市場は 448 億円に急成長。～ポスト・コロナ時代は、ライブ・エンタテインメントへの参加スタイルも多様化へ ／ぴあ総研が調査結果を公表」
〈https://corporate.pia.jp/news/detail_live_enta_20210212.html〉

・古川秀夫、山下京、八木隆一郎(1993)「ゆとりの構造」『社会心理学研究』、第 9 巻、第 3 号、pp.171-180
〈https://www.jstage.jst.go.jp/article/jssp/9/3/9_KJ00003725260/_pdf/-char/ja〉

・伊藤美奈子(1993)「個人志向性・社会志向性に関する発達的研究」『Japanese Journal of Educational Psychology』、41、pp.293-301
〈https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjep1953/41/3/41_293/_pdf〉

コンサートに関するアンケート

この調査は、コンサートについて調べるための調査です。この調査で収集した回答は統計的に処理を行い、授業内での発表や報告書作成の目的以外に使用することは一切ございません。また、この回答により、個人が特定されたり、授業の評価に影響を及ぼしたりすることはございません。

調査についての質問、ご不明な点がございましたら下記の連絡先までご連絡ください。

文教大学　情報学部　メディア表現学科　児島七彩
b9p51037@bunkyo.ac.jp

Q1.性別を教えてください。

男性(29.5%)　女性(68.8%)　記入なし(1.6%)

Q2.学年を教えてください。

1 年(25.1%)　2 年(29.5%)　3 年(24.0%)　4 年(21.3%)　その他(0%)

Q3.学部を教えてください。

教育学部(16.3%)　人間科学部(27.3%)　文学部(15.3%)　情報学部(16.9%)
健康栄養学部(5.4%)　国際学部(12.0%)　経営学部(6.5%)

Q4.新型コロナウイルスが流行する前と比べて、外出する頻度に変化はありましたか。

減った(84.1%)　増えた(2.1%)　変わらない(13.1%)

Q5.新型コロナウイルスが流行する前と比べて、収入に変化はありましたか。

減った(29.5%)　増えた(10.9%)　変わらない(57.9%)

Q6. 新型コロナウイルスが流行する前と比べて、自由に使える時間に変化はありましたか。

減った(4.9%)　増えた(79.2%)　変わらない(15.8%)

Q7.あなたは、イベントの開催は政治の影響を受けていると思いますか。

はい(85.2%)　いいえ(14.7%)

Q8.「Q7」で「はい」と回答した方のみお答えください。それは良いことだと思いますか。

とてもそう思う(2.5%)　どちらかといえばそう思う(28.2%)
わからない(31.4%)　どちらかといえばそう思わない(28.8%)
全くそう思わない(8.9%)

Q9.「Q7」で「いいえ」と回答した方のみお答えください。それは良いことだと思いますか。

とてもそう思う(3.7%)　どちらかといえばそう思う(29.6%)
わからない(59.2%)　どちらかといえばそう思わない(7.4%)
全くそう思わない(0.0%)

Q10.あなたは、イベントの主催側は補償などの面で政府に守られていると思いますか。

はい(10.3%)　いいえ(49.7%)　わからない(39.8%)

Q11.「10」で「はい」と回答した方のみお答えください。それは良いことだと思いますか。

とてもそう思う(47.3%)　どちらかといえばそう思う(47.3%)
わからない(5.2%)　どちらかといえばそう思わない(0.0%)
全くそう思わない(0.0%)

Q12.「Q10」で「いいえ」と回答した方のみお答えください。それは良いことだと思いますか。

とてもそう思う(3.3%)　どちらかといえばそう思う(4.4%)
わからない(5.5%)　どちらかといえばそう思わない(42.2%)
全くそう思わない(44.4%)

Q13.あなたは、イベントに参加することが悪いことに感じますか。

はい(9.8%)　いいえ(78.1%)　わからない(12.0%)

Q14.「Q13」で「はい」と回答した方のみお答えください。それは良いことだと思いますか。

とてもそう思う(5.8%)　どちらかといえばそう思う(58.8%)
わからない(23.5%)　どちらかといえばそう思わない(5.8%)
全くそう思わない(5.8%)

Q15. 「Q13」で「はい」と回答した方のみお答えください。それは良いことだと思いますか。

とてもそう思う(14.8%)　どちらかといえばそう思う(43.2%)
わからない(29.0%)　どちらかといえばそう思わない(7.8%)
全くそう思わない(4.9%)

Q16.あなたは、イベントに参加したことを SNS で共有しにくいと感じますか。

はい(45.9%)　いいえ(38.8%)　わからない(15.3%)

Q17. 「Q16」で「はい」と回答した方のみお答えください。それは良いことだと思いますか。

とてもそう思う(4.8%)　どちらかといえばそう思う(16.8%)
わからない(25.3%)　どちらかといえばそう思わない(46.9%)
全くそう思わない(6.0%)

Q18. 「Q16」で「いいえ」と回答した方のみお答えください。それは良いことだと思いますか。

とてもそう思う(17.1%)　どちらかといえばそう思う(42.8%)
わからない(24.2%)　どちらかといえばそう思わない(12.8%)
全くそう思わない(2.8%)

Q19.あなたは、イベントが開催された際、主催側はそれを積極的に発信していると思いますか。

はい(59.5%)　いいえ(16.9%)　わからない(22.9)

Q20. 「Q19」で「はい」と回答した方のみお答えください。それは良いことだと思いますか。

とてもそう思う(30.6%)　どちらかといえばそう思う(43.1%)
わからない(4.5%)　どちらかといえばそう思わない(0.0%)
全くそう思わない(0.0%)

Q21. 「Q19」で「いいえ」と回答した方のみお答えください。それは良いことだと思いますか。

とてもそう思う(10.0%)　どちらかといえばそう思う(20.0%)
わからない(26.6%)　どちらかといえばそう思わない(36.6%)
全くそう思わない(6.6%)

Q22.コロナ禍におけるイベント開催において何が必要だと考えますか。

	必要	どちらかといえば必要	どちらでもない	どちらかといえば不要	不要
大声を出さないこと	(78.1%)	(16.9%)	(2.1%)	(2.1%)	(0.5%)
フェイスシールドの着用	(33.3%)	(32.2%)	(10.9%)	(13.1%)	(10.3%)
タレントと観客の接触禁止	(66.6%)	(26.7%)	(3.2%)	(2.7%)	(0.0%)
観客同士のソーシャルディスタンス	(77.0%)	(19.1%)	(3.2%)	(0.0%)	(0.5%)
消毒液の設置	(91.8%)	(7.1%)	(1.0%)	(0.0%)	(0.0%)
検温の実施	(84.7%)	(9.8%)	(2.7%)	(2.8%)	(0.0%)
収容人数の削減	(67.2%)	(27.3%)	(2.7%)	(1.6%)	(1.0%)
屋外での開催	(40.4%)	(34.9%)	(15.3%)	(8.2%)	(1.0%)
コロナ禍でのイベント	(13.6%)	(31.6%)	(38.2%)	(11.4%)	(4.3%)

Q23.緊急事態宣言やイベント自粛要請により、チケットを購入していたコンサートが中止になったことがありますか。

はい(33.8%)　　いいえ(64.4%)

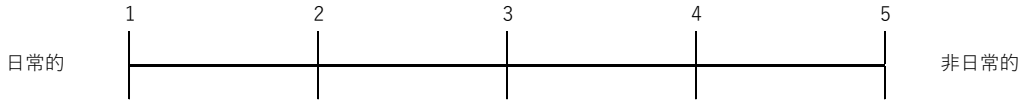
Q24.緊急事態宣言やイベント自粛要請により、チケットを購入していたコンサートが延期になったことがありますか。

はい(31.6%)　　いいえ(66.1%)

Q25.2020 年の最初の緊急事態宣言発令「以前」に、有料の有観客コンサートに行ったことがありますか。

はい(66.6%)　　いいえ(33.3%)

Q26.「Q25」で「はい」と回答した方のみお答えください。当時、コンサートの生活への密着度はどの程度でしたか。「日常的」から「非日常的」の中でお答えください。



1(13.7%)　2(19.3%)　3(8.0%)　4(25.8%)　5(33.0%)

Q27.「Q25」で「はい」と回答した方のみお答えください。コロナ禍以前のコンサートの醍醐味は何でしたか。各項目について、それぞれ最も当てはまると思うものを選んでください。

	当てはまる	やや当てはまる	どちらでもない	あまり当てはまらない	当てはまらない
アーティストを生で見ること	(94.1%)	(5.8%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)
歌をきくこと	(100.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)
ダンスをみること	(70.5%)	(11.7%)	(0.0%)	(5.8%)	(11.7%)
楽器の演奏をきくこと	(76.4%)	(11.7%)	(5.8%)	(0.0%)	(5.8%)
掛け声を出すこと	(64.7%)	(17.6%)	(5.8%)	(5.8%)	(5.8%)
一緒に歌うこと	(52.9%)	(17.6%)	(5.8%)	(11.7%)	(11.7%)
一緒に踊ること	(29.4%)	(11.7%)	(11.7%)	(29.4%)	(17.6%)
手を振ってもらったり、サインボールをもらったりすること	(47.0%)	(35.2%)	(0.0%)	(0.0%)	(17.6%)
グッズを買うこと	(76.4%)	(11.7%)	(5.8%)	(5.8%)	(0.0%)
同じ趣味の友達に会うこと	(47.0%)	(23.5%)	(11.7%)	(11.7%)	(5.8%)
終演後に感想を言い合うこと	(52.9%)	(29.4%)	(0.0%)	(5.8%)	(11.7%)

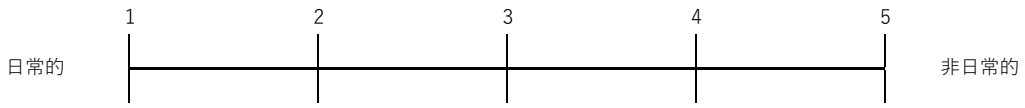
Q28.「Q25」で「いいえ」と回答した方のみお答えください。コロナ禍以前にコンサートに足を運ばなかったのはなぜですか。

	当てはまる	やや当てはまる	どちらでもない	あまり当てはまらない	当てはまらない
コンサート自体に興味がなかった	(55.1%)	(15.5%)	(5.1%)	(12.0%)	(12.0%)
好きなアーティストがいなかった	(48.2%)	(12.0%)	(6.8%)	(17.2%)	(17.2%)
チケットを取ることが難しかった	(25.8%)	(13.7%)	(18.9%)	(12.0%)	(31.0%)
チケットを取ることが面倒だった	(25.8%)	(20.6%)	(15.5%)	(13.7%)	(22.4%)
会場が遠かった	(17.2%)	(18.9%)	(25.8%)	(10.3%)	(27.5%)
人混みが苦手	(34.4%)	(20.6%)	(22.4%)	(5.1%)	(17.2%)
一緒に行く人がいなかった	(10.3%)	(20.6%)	(24.1%)	(17.2%)	(27.5%)

Q29.2020 年の最初の緊急事態宣言発令「以降」に、有料の有観客コンサートに行ったことがありますか。

はい(24.0%)　　いいえ(74.8%)

Q30.「Q29」で「はい」と回答した方のみお答えください。現在、コンサートの生活への密着度はどの程度ですか。「日常的」から「非日常的」の中でお答えください。



1(11.3%)　2(11.3%)　3(18.1%)　4(27.2%)　5(31.8%)

Q31.「Q29」で「はい」と回答した方のみお答えください。コロナ禍以降のコンサートの醍醐味は何でしたか。各項目について、それぞれ最も当てはまると思うものを選んでください。

	当てはまる	やや当てはまる	どちらでもない	あまり当てはまらない	当てはまらない
アーティストを生で見ること	(95.4%)	(2.2%)	(0.0%)	(0.0%)	(2.2%)
歌をきくこと	(95.4%)	(2.2%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)
ダンスをみること	(60.9%)	(17.0%)	(9.7%)	(4.8%)	(7.3%)
楽器の演奏をきくこと	(55.8%)	(16.2%)	(13.9%)	(6.9%)	(6.9%)
掛け声を出すこと	(6.9%)	(6.9%)	(9.3%)	(16.2%)	(60.4%)
一緒に歌うこと	(4.6%)	(4.6%)	(9.3%)	(16.2%)	(65.1%)
一緒に踊ること	(9.3%)	(11.6%)	(16.2%)	(16.2%)	(46.5%)
手を振ってもらったり、サインボールをもらったりすること	(30.2%)	(20.9%)	(18.6%)	(11.6%)	(18.6%)
グッズを買うこと	(37.2%)	(30.2%)	(9.3%)	(18.6%)	(4.6%)
同じ趣味の友達に会うこと	(23.2%)	(25.5%)	(13.9%)	(16.2%)	(20.9%)
終演後に感想を言い合うこと	(28.5%)	(33.3%)	(11.9%)	(14.2%)	(11.9%)

Q32.「Q29」で「いいえ」と回答した方のみお答えください。コロナ禍以降にコンサートに足を運ばなかったのはなぜですか。

	当てはまる	やや当てはまる	どちらでもない	あまり当てはまらない	当てはまらない
コンサート自体に興味がなかった	(33.3%)	(8.1%)	(5.9%)	(19.2%)	(33.3%)
好きなアーティストがいなかった	(28.8%)	(10.3%)	(10.3%)	(15.5%)	(34.8%)
チケットを取ることが難しかった	(20.8%)	(19.4%)	(15.6%)	(10.4%)	(33.5%)
チケットを取ることが面倒だった	(21.4%)	(19.2%)	(12.5%)	(11.8%)	(34.8%)
会場が遠かった	(13.3%)	(16.2%)	(18.5%)	(14.8%)	(37.0%)
人混みが苦手	(26.6%)	(17.7%)	(16.2%)	(11.8%)	(27.4%)
一緒に行く人がいなかった	(16.2%)	(11.1%)	(18.5%)	(11.8%)	(42.2%)
主催側の感染対策が不安	(22.9%)	(17.7%)	(17.7%)	(14.8%)	(25.9%)
公共交通機関を利用することが不安	(22.9%)	(19.2%)	(15.5%)	(14.8%)	(27.4%)
家族の反対	(17.0%)	(11.8%)	(20.7%)	(13.3%)	(37.0%)
日常生活で関わる人への配慮	(34.8%)	(26.6%)	(12.5%)	(8.8%)	(17.0%)
社会の目が気になる	(22.2%)	(25.9%)	(17.0%)	(15.5%)	(19.2%)
なんとなく行かない方が良い気がした	(39.5%)	(25.3%)	(14.1%)	(5.9%)	(14.9%)
好きなアーティストがコンサートを開催していなかった	(40.4%)	(9.5%)	(18.3%)	(7.3%)	(24.2%)

Q33.2020 年の最初の緊急事態宣言発令「以降」に、有料の配信コンサートを購入し、視聴したことがありますか。

はい(43.7%)　　いいえ(53.0%)

Q34.「Q33」で「はい」と回答した方のみお答えください。なぜ、視聴しようと思いましたか。

	当てはまる	やや当てはまる	どちらでもない	あまり当てはまらない	当てはまらない
手軽だった	(64.5%)	(21.5%)	(5.0%)	(5.0%)	(3.7%)
料金が安かった	(30.3%)	(20.2%)	(17.7%)	(22.7%)	(8.8%)
演出を見てみたかった	(73.4%)	(16.4%)	(3.7%)	(5.0%)	(1.2%)
セットリストがよかった	(39.2%)	(16.4%)	(17.7%)	(15.1%)	(11.3%)
知人の勧め	(8.8%)	(5.0%)	(15.1%)	(21.5%)	(49.3%)
暇だった	(11.3%)	(17.2%)	(10.1%)	(20.2%)	(40.5%)

Q35.あなた自身についてお答えください。

	当てはまる	やや当てはまる	どちらでもない	あまり当てはまらない	当てはまらない
私には遊び心がある	(28.4%)	(43.7%)	(14.2%)	(9.8%)	(1.6%)
何事も楽しんでやっている	(31.6%)	(44.8%)	(13.6%)	(7.1%)	(0.5%)
美しい環境に恵まれている	(23.5%)	(45.3%)	(21.8%)	(5.4%)	(1.6%)
老後のことが心配でならない	(21.3%)	(26.7%)	(15.8%)	(23.5%)	(10.3%)
自分に自信がある	(5.4%)	(21.3%)	(19.6%)	(31.6%)	(19.6%)
大きな目標がある	(20.2%)	(19.6%)	(16.3%)	(26.7%)	(14.7%)

たいていのことは対処できる	(12.5%)	(41.5%)	(16.9%)	(20.2%)	(6.0%)
安らぎのある生活を送っている	(17.4%)	(44.2%)	(16.9%)	(13.66%)	(4.9%)
自由な時間がある	(33.8%)	(48.6%)	(8.2%)	(6.0%)	(1.0%)
今の生活に満足している	(20.7%)	(36.0%)	(16.3%)	(19.1%)	(5.4%)
他人のために心遣いする余裕がある	(25.6%)	(48.0%)	(16.3%)	(6.5%)	(0.5%)
感謝したくなることが多い	(39.8%)	(37.7%)	(14.7%)	(3.2%)	(1.6%)
何かと気に入らないことが多い	(5.4%)	(21.8%)	(26.7%)	(33.3%)	(9.8%)
生活は安定している	(24.0%)	(44.8%)	(13.1%)	(11.4%)	(3.8%)
頭を離れない心配事がある	(24.0%)	(36.0%)	(13.1%)	(16.9%)	(7.1%)
経済的な余裕がある	(9.2%)	(26.7%)	(24.0%)	(25.1%)	(11.4%)
休暇は十分にある	(26.2%)	(33.3%)	(17.4%)	(16.9%)	(3.2%)
人生について考える余裕がない	(4.9%)	(12.5%)	(25.1%)	(37.1%)	(17.4%)
家庭内はうまくいっている	(42.0%)	(32.2%)	(12.5%)	(5.4%)	(4.3%)
精神的に安定している	(26.7%)	(34.4%)	(18.5%)	(11.4%)	(6.0%)
頭を空っぽにしていることがよくある	(14.2%)	(28.9%)	(21.3%)	(22.4%)	(10.6%)
いやなことはとにかくしない	(16.9%)	(31.1%)	(18.0%)	(25.1%)	(6.0%)
たいてい自分のペースで事が進めている	(30.6%)	(43.7%)	(15.3%)	(6.5%)	(1.0%)

住んでいる家は十分な広さがる	(36.6%)	(34.9%)	(11.4%)	(10.9%)	(2.7%)

Q36.あなた自身についてお答えください。

	当てはまる	やや当てはまる	どちらでもない	あまり当てはまらない	当てはまらない
人に対して誠実であるように心がけている	(53.5%)	(35.5%)	(6.5%)	(0.5%)	(1.0%)
他の人から尊敬される人間になりたい	(49.1%)	(34.9%)	(4.9%)	(4.3%)	(3.8%)
他の人の気持ちになることができる	(34.4%)	(42.0%)	(15.8%)	(2.7%)	(2.1%)
他人に恥ずかしくないように生きている	(26.7%)	(45.9%)	(13.6%)	(7.6%)	(3.8%)
周りとの調和を重んじている	(43.1%)	(35.5%)	(14.7%)	(3.2%)	(0.5%)
社会のルールに従って生きていると思う	(46.4%)	(43.1%)	(5.4%)	(2.1%)	(0.5%)
社会(周りの人)のために役立つ人間になりたい	(43.1%)	(39.8%)	(9.2%)	(2.7%)	(2.1%)
人とのつながりを大事にしている	(47.5%)	(34.4%)	(10.9%)	(2.7%)	(1.6%)
社会(周りの人)の中で自分が果たすべき役割がある	(18.0%)	(32.2%)	(28.4%)	(10.9%)	(7.1%)